

市川市公共施設に関する市民ワークショップ

いっしょに考えよう！ 市川市の公共施設

第1回 説明資料



いつも新しい流れがある 市川

目 次

1. 公共施設を取り巻く現状

2. 市川市の取組み

3. 施設の用途ごとの概要

4. アンケート調査結果

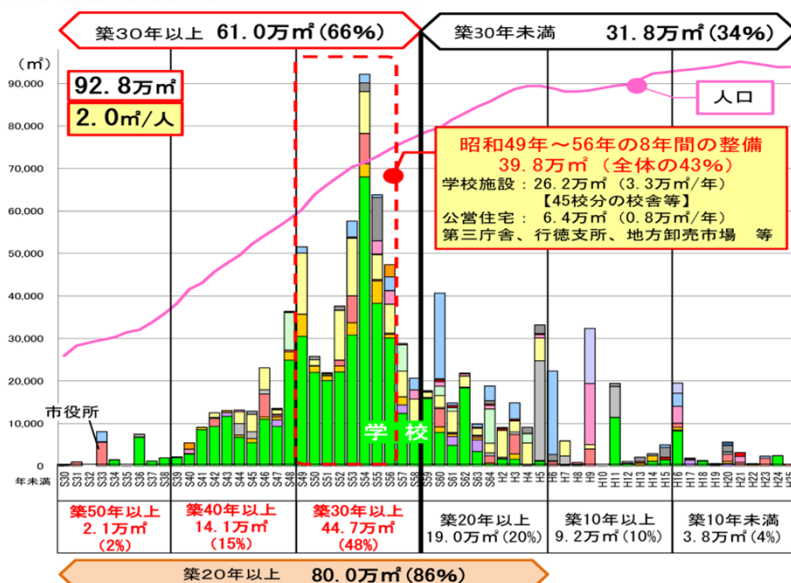
1. 公共施設を取り巻く現状



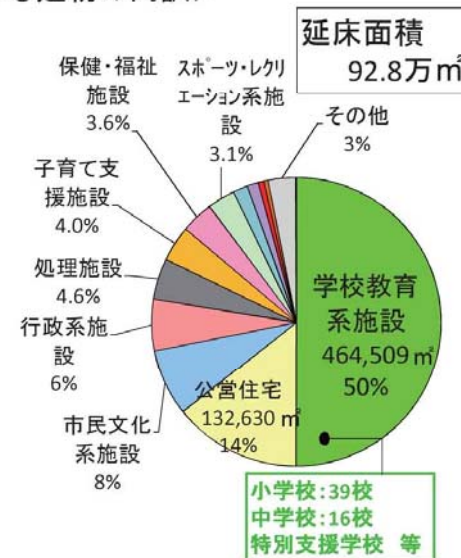
公共施設の現状（施設の老朽化）

施設の半数以上が築30年以上を経過しています（施設の老朽化）

<築年別整備状況>



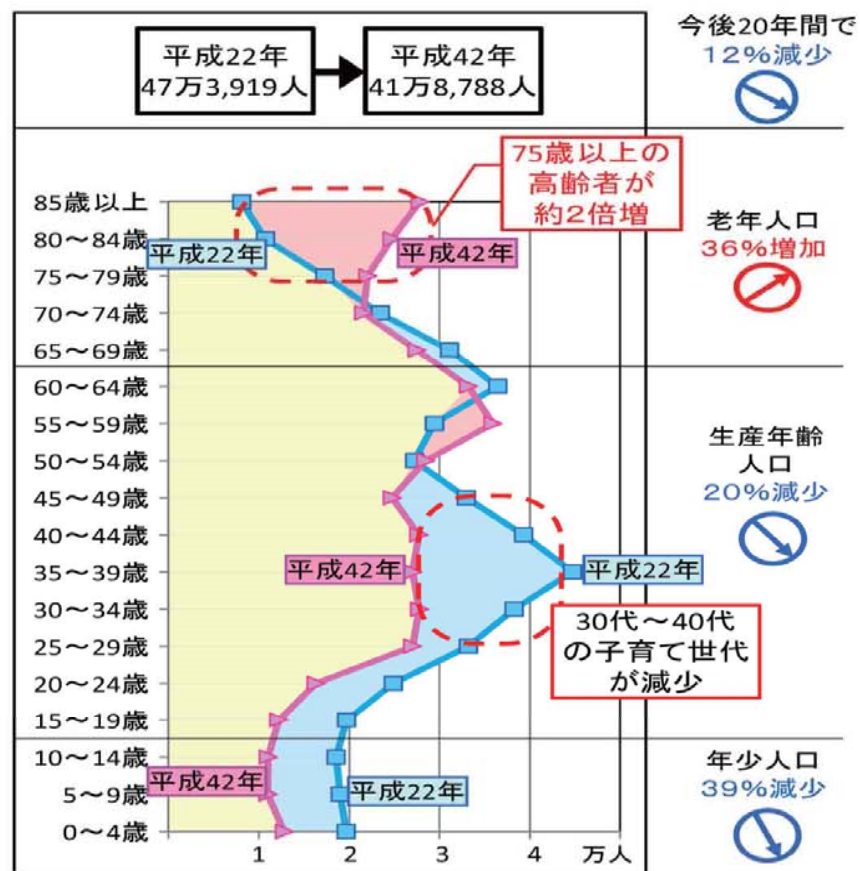
<保有する建物の内訳>



- ✓ 市の保有する公共施設 92.8 万㎡のうち、学校が 50%、その次に公営住宅が 14%となっています。
- ✓ 築 30 年経過した施設が 66%で、主に学校、公営住宅等となっています。
- ✓ 昭和 49～56 年に全体の 43%にあたる 39.8 万㎡が建築されており、建築時期が集中しているため、今後大規模改修や建替えの時期も一斉にやってくることが予測されます。

市川市公共施設に関するアンケート調査資料より

少子高齢化の進展



※ 年少人口: 0～14歳
生産年齢人口: 15～64歳
老年人口: 65歳以上

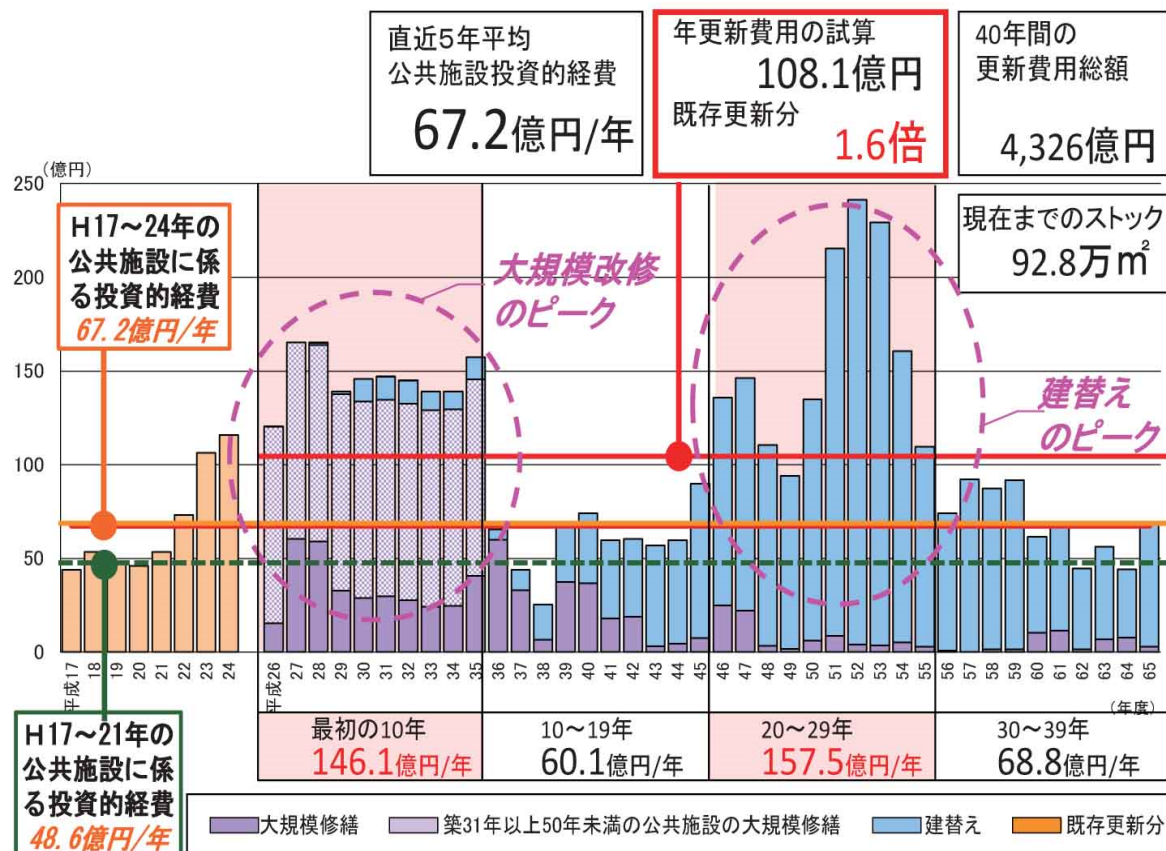
- ・平成22年から平成42年までの今後20年間で、老年人口は36%増加する予測です。
- ・一方、生産年齢人口は20%、年少人口は39%減少する予測です。



- ✓ 生産年齢人口の減少は、税収にマイナスの影響を与えます。
- ✓ 市川市においても社会保障経費の増加が見込まれています。

将来更新費用の予測（建築物）

今ある施設を同規模で改修・建替えしていった場合



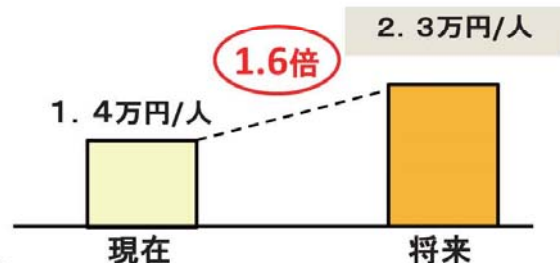
- 平成 17～24 年の公共施設に係る投資的経費の平均額は 67.2 億円でした。
- 今後 40 年間に必要な投資的経費は 4,326 億円で、年平均 108 億円、従来の約 1.6 倍の予算が必要と試算されます。

市川市公共施設に関するアンケート調査資料より

今ある全ての施設を同じ規模で維持・更新（建替え）していくことは極めて困難です。

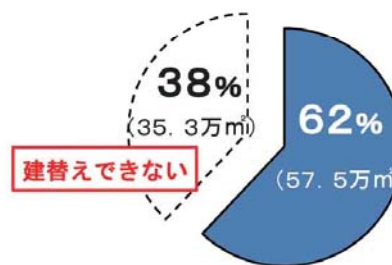
現状の保有量を全て維持した場合

今後、建物の維持・更新に多額の費用がかかるため、市民1人当たりの負担が年間約0.9万円増加します。



現状の投資的経費を維持した場合

財源不足のため、全ての施設を維持、更新することができず、単純計算では約38%の施設を減らさなくてはなりません。



将来に向けて、公共施設のあり方を見直す必要があります

- ✓ こうした公共施設の課題を解決するため、今ある資源・資産を最大限有効活用して、コスト削減と行政サービスの維持・向上が図れるよう、市民の方とともに検討を進めていきます。

市川市公共施設に関するアンケート調査資料より

2. 市川市の取組み



市川市の取り組み

■市川市公共施設白書（H27. 3）

- 人口、財政状況、保有する建築物（**ハコモノ**）の整備状況を把握し、将来更新費用（建替え・改修にかかる費用）を試算。
※アンケート調査説明資料として添付
- 建物状況や利用状況、維持管理にかかる費用などの情報を整理し、施設の現状を把握。

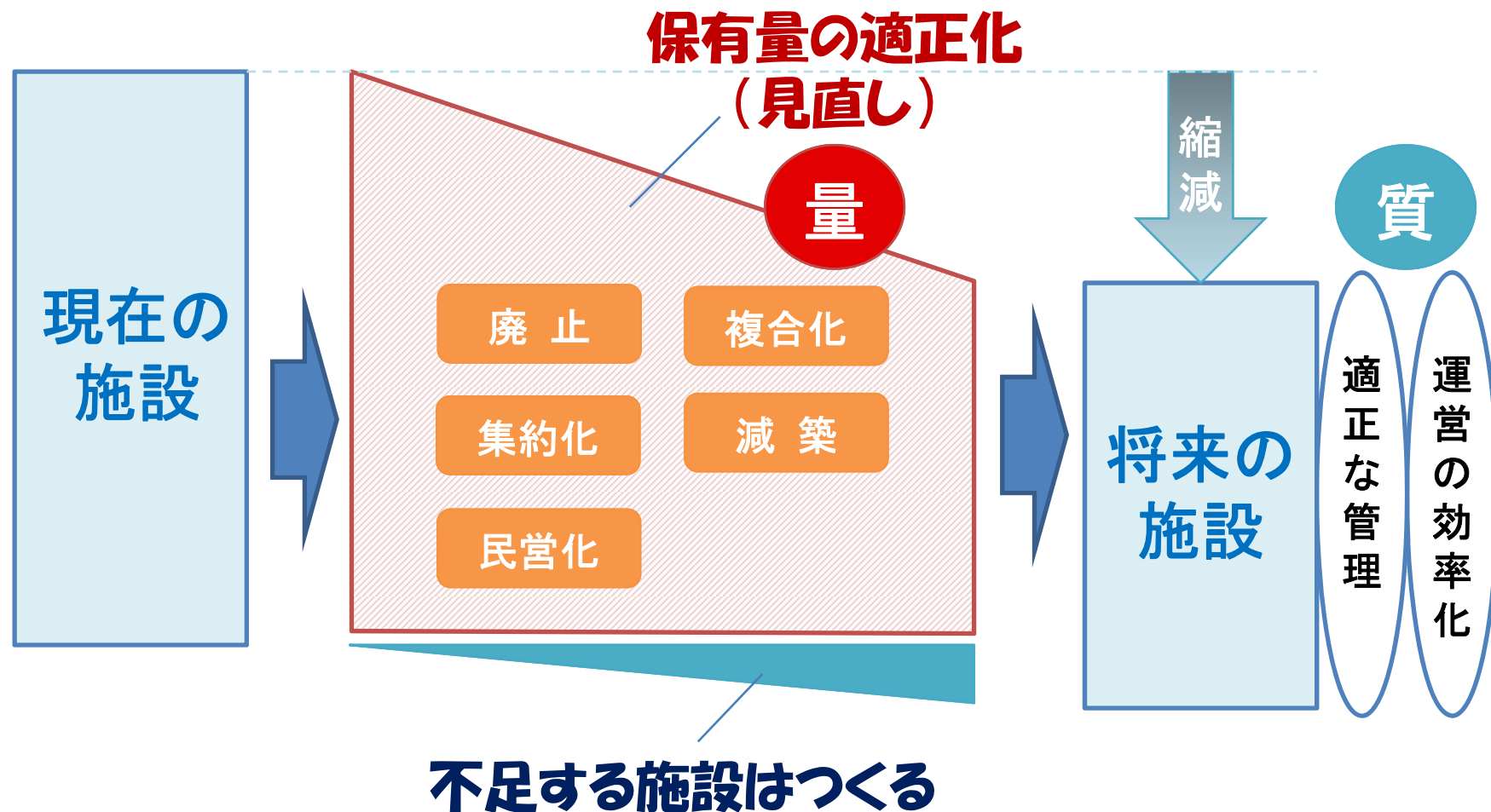


■市川市公共施設等総合管理計画（H28. 3）

建築物（ハコモノ）だけでなく、道路、橋、下水道などのインフラ施設を含めた今後の公共施設のあり方について、**市の全体的な方針をまとめる**

⇒個々の施設の方向性（維持・統廃合など）は示さない

公共施設見直しのイメージ



公共施設の適正化（見直し）を
図っていくためには…



施設ごとに

- ・ 市民のニーズ
- ・ 地域における役割
- ・ 安全性などの状況

を把握したうえで、今後どうあるべきかを考えていく必要があります。

3. 施設の用途ごとの概要

第2回ワークショップで皆様にお考えいただきたい施設(種別)です。

①学校施設

②集会施設

③図書館（関連施設含む）

①学校施設（小・中学校）

◆子どもの教育を取り巻く現状と課題

- 核家族化や少子高齢化が進み、人との関わりが希薄化する中、人間関係を形成する力が低下してきている。
- 命を軽んじる風潮が一部で見られ、子どもたちの安全・安心への不安が広がってきている。
- 学校と家庭、地域社会が教育の場としての機能を十分に発揮し、一体となった教育を進めていく必要がある。

◆子どもの教育分野のねらい

- **子どもの育成**（子どもの姿）
⇒主体的に考え行動する力、他と強調しつつ国際社会の中でたくましく生きていく力を育む。
- **家庭・学校・地域の連携**（家庭・学校・地域の姿）
⇒家庭や学校、地域が連携・協力して教育力の向上を図る。
- **教育環境の整備・充実**（市川の子どもの姿）
⇒幼児期から充実した教育環境を整え、一人ひとりに応じた教育的支援を進める。

※市川市総合計画・第二次基本計画より抜粋

①学校施設（小・中学校）

【学校数】

◆小学校

39校

◆中学校

16校

◆特別支援学校

1校

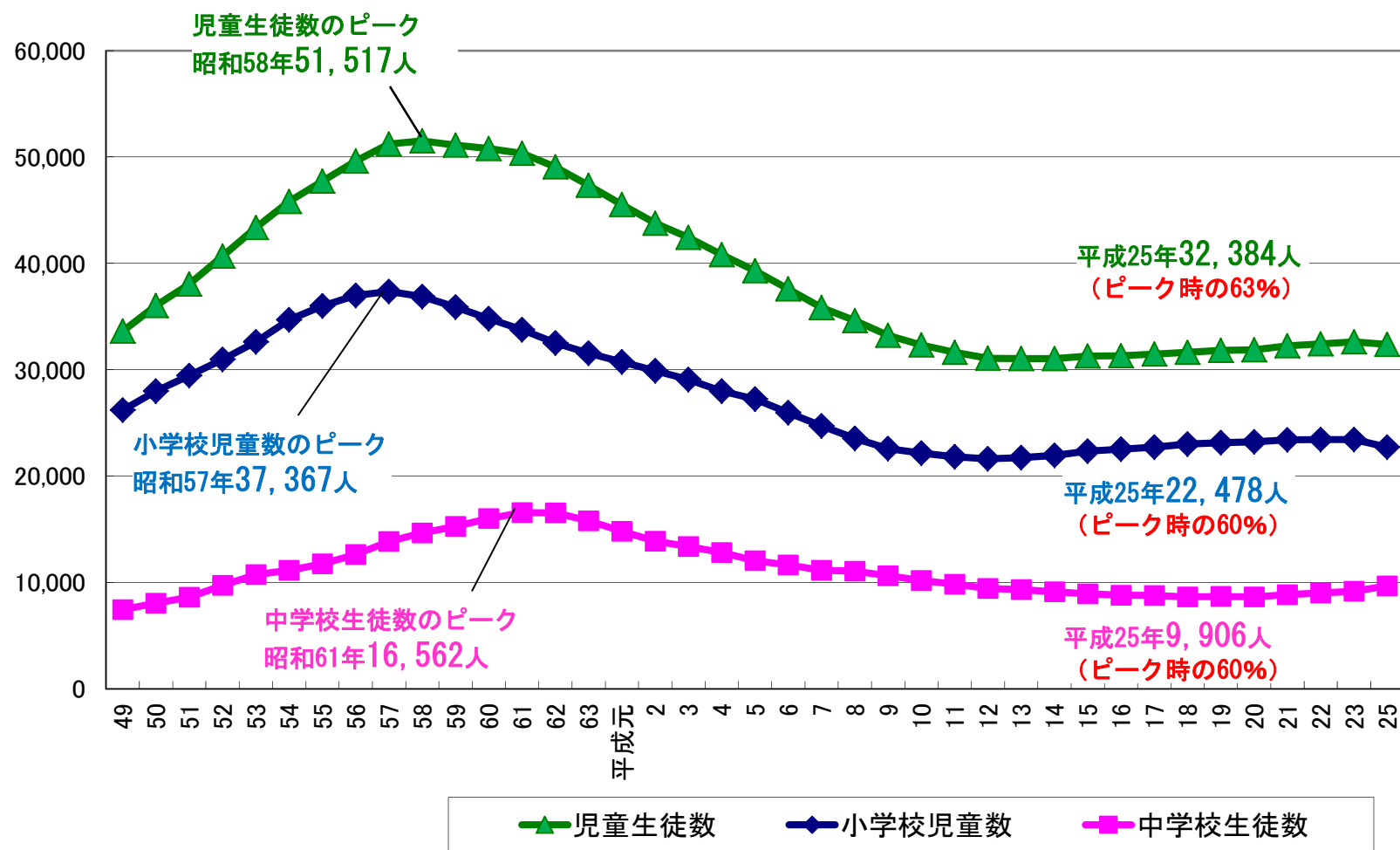
計

56校

※施設一覧は別添「公共施設シート」参照

①学校施設（小・中学校）

【児童・生徒数の推移】

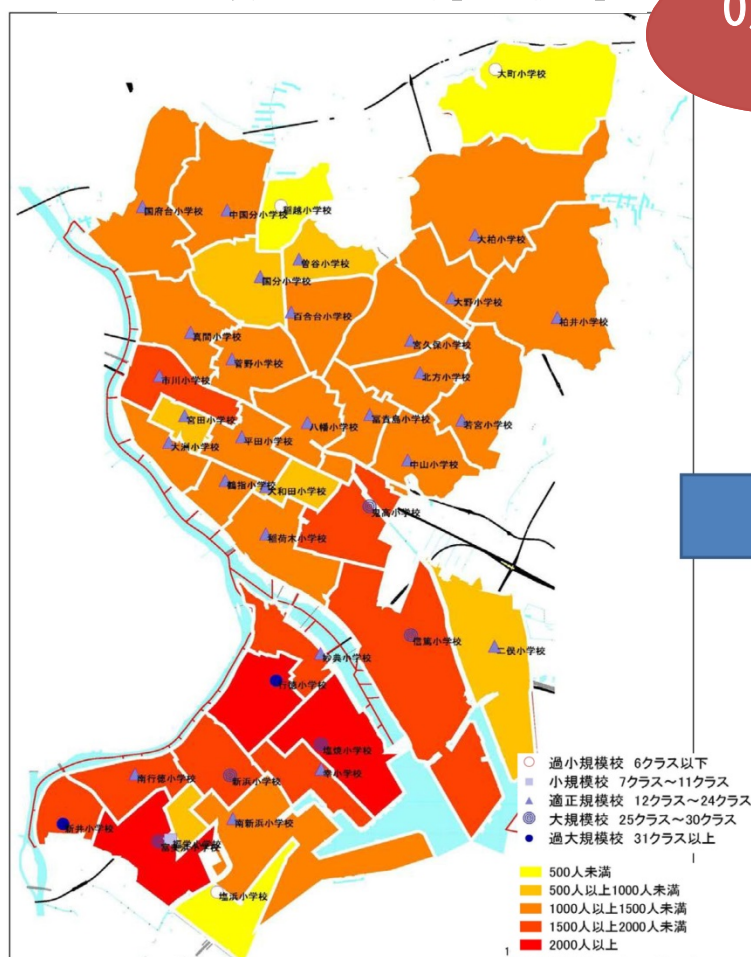


※市川市公共施設白書より

①学校施設（小学校）

【現況と10年後の年少人口の推移・クラス数】

平成27年度年少人口分布【小学校区】



平成37年度年少人口分布【小学校区】



・年少人口の減少が著しい地域がある。【市内南部・北東部】

・空クラスが大量に生じる恐れのある学校がある。【行徳小、信篤小、新浜小、富美浜小、新井小、南新浜小】

①学校施設（活用の事例）

◆放課後保育クラブ（学童保育）：小学校

子ども



- ・ 1年生～6年生までが対象
- ・ 市内全小学校に設置。
 - 教室
 - 敷地内にプレハブ建築
 - 体育館（2階会議室）

◆デイサービスセンター：国府台小学校

高齢者



国府台小学校第2校舎の1階を
デイサービスセンター※として活用

※ 利用者が自宅で自立した生活を送ることができるよう、食事や入浴などの日常生活上の支援、生活機能向上のための機能訓練、レクリエーション、送迎サービスなどを日帰りで提供する施設

①学校施設（複合施設整備）

◆第七中学校校舎・給食室・公会堂整備並びに保育所整備PFI事業

老朽化した中学校校舎と給食室の建替えに際して、公会堂、保育所などの地域ニーズの高い施設を併設した複合施設をPFI事業※により整備

※ 民間の資金や技術、運営の手法を活用し、効果的に公共施設の整備・管理・運営を行う事業



【施設概要】

- ◆構造：鉄筋コンクリート造
（一部鉄骨鉄筋コンクリート造）
地上5階、地下1階
- ◆延床面積：約23,700㎡
（既存校舎含む）
- ◆供用開始：平成16年9月
- ◆併設施設
 - ・第七中学校
 - ・行徳公会堂（行徳文化ホール）
 - ・すえひろ保育園（**民営**）
 - ・行徳ケアハウス翔裕園（**民営**）
 - ・行徳デイサービス翔裕園（**民営**）

行徳支所・行徳公民館・行徳図書館が隣接し、地域の拠点となっている

②集会施設

◆生涯学習分野を取り巻く現状と課題

- 市民の価値観やライフスタイルの多様化に伴い、市民の学習活動も多様化、専門化してきている。
- 子どもから大人まで一人ひとりが自主的、主体的に活動できるよう、多様な学習ニーズに的確に対応できる体制づくりが必要。
- 市民の学習ニーズに合わせて社会教育施設を活用する必要がある。

◆生涯学習分野のねらい

- **生涯を通して学び続けられる学習環境の実現**
 - ⇒情報の発信源や学びの拠点として有効活用を図ることで、誰もが生涯を通じて学び続けられる学習環境の充実を図る。
 - ⇒活動の場を構築することで、学習で得た知識や成果を積極的に地域社会に活かせる機会・仕組みづくりを進める。

※市川市総合計画・第二次基本計画より抜粋

②集会施設

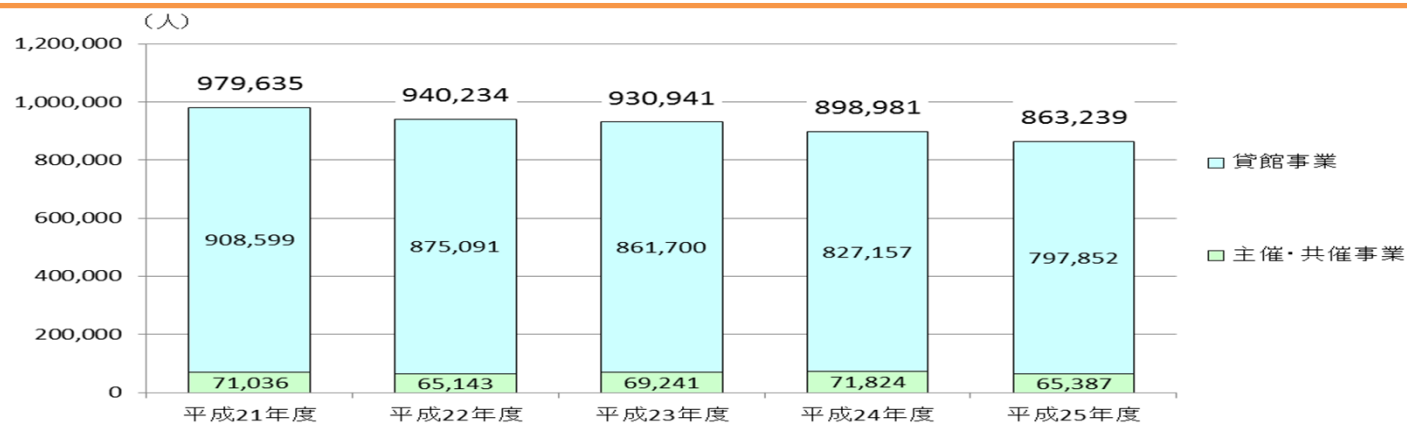
施 設 名	施設数
◆公民館	16
◆地域ふれあい館	13
◆市民談話室	2
◆男女共同参画センター	1
◆文化会館	1
◆行徳文化ホール	1
◆アイ・リンクルーム/ホール	1
◆急病診療・ふれあい集会室	1
合 計	36

※施設一覧は別添「公共施設シート」参照

②集会施設

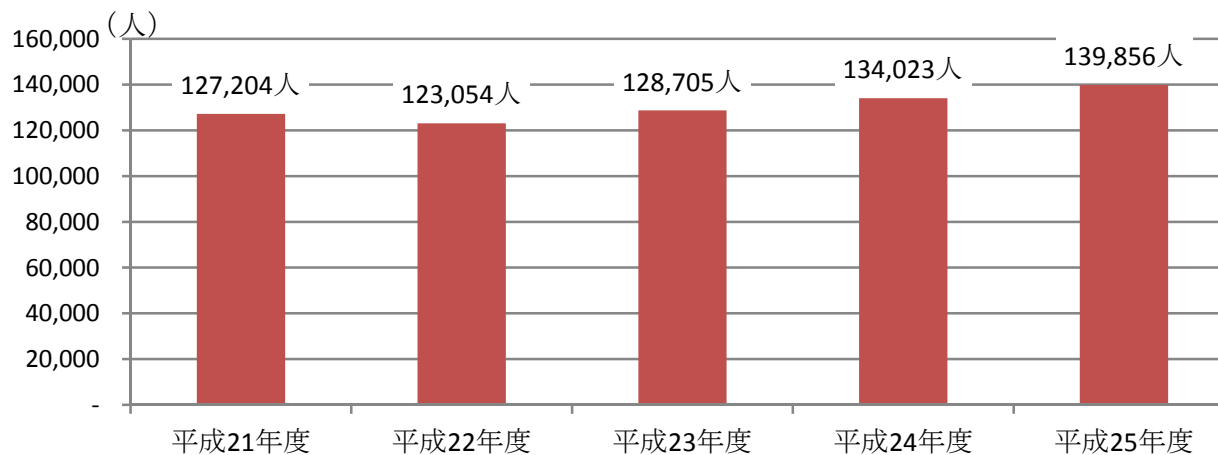
【利用者数の推移】

公民館



※改修工事による休館が影響し、減少傾向で推移

ふれあい館
地域



※市川市公共施設白書より

②集会施設（複合化の状況）

◆公民館

名称	複合・併設施設							備考
	●図書館 ○図書室	庁舎等	スポーツ 施設	子育て支援 施設	いきいきセン ター	その他高齢 者福祉施設	その他	
1 中央公民館							ケアシステム	
2 鬼高公民館								
3 信篤公民館	●		●	●			地域ケア ・集会室	
4 東部公民館	○			●			ケアシステム ・集会室	
5 柏井公民館				●			集会室	
6 大野公民館	○	●				●	ケアシステム	大柏出張所内
7 若宮公民館							集会室	
8 市川公民館	○							
9 西部公民館	○			●			ケアシステム ・集会室	
10 市川駅南公民館	○			●	●		相談室等	こども発達センター内
11 曾谷公民館	○			●			ケアシステム ・集会室	
12 行徳公民館	●	●		●				行徳支所内
13 本行徳公民館	○			●			集会室	
14 幸公民館				●			集会室	
15 南行徳公民館				●			ケアシステム	
16 菅野公民館							ケアシステム	

【複合・併設施設】

○図書室

○子育て支援施設
（こども館等）

○高齢者施設

○地域ケアシステム※

※様々な地域活動の拠点
自治会、子ども会、
高齢者クラブ、障がい団体、
ボランティア・NPO活動団体、
社会福祉協議会など

②集会施設（見直し事例）

◆地域ふれあい館



- ・旧青少年館をリニューアルし、サークル活動や地域のコミュニティ活動など、地域のふれあいと集いの場。
- ・主に鉄道高架下に設置（13館のうち10館）

◆男女共同参画センター



7階 研修ホール

- ・西消防署との複合施設「西消防署・女性センター」※平成3年開設
- ・7階にあった消防局研修ホールを広く市民に貸し出しできる施設として転用。

③図書館

◆生涯学習分野を取り巻く現状と課題

- 市民の価値観やライフスタイルの多様化に伴い、**市民の学習活動も多様化、専門化**してきている。
- 子どもから大人まで一人ひとりが自主的、主体的に活動できるよう、**多様な学習ニーズに的確に対応できる体制づくり**が必要。
- **市民の学習ニーズに合わせて社会教育施設を活用**する必要がある。

◆生涯学習分野のねらい

- **生涯を通して学び続けられる学習環境の実現**
 - ⇒情報の発信源や学びの拠点として有効活用を図ることで、誰もが生涯を通じて学び続けられる学習環境の充実を図る。
 - ⇒活動の場を構築することで、学習で得た知識や成果を積極的に地域社会に活かせる機会・仕組みづくりを進める。

※市川市総合計画・第二次基本計画より抜粋

③図書館（関連施設含む）

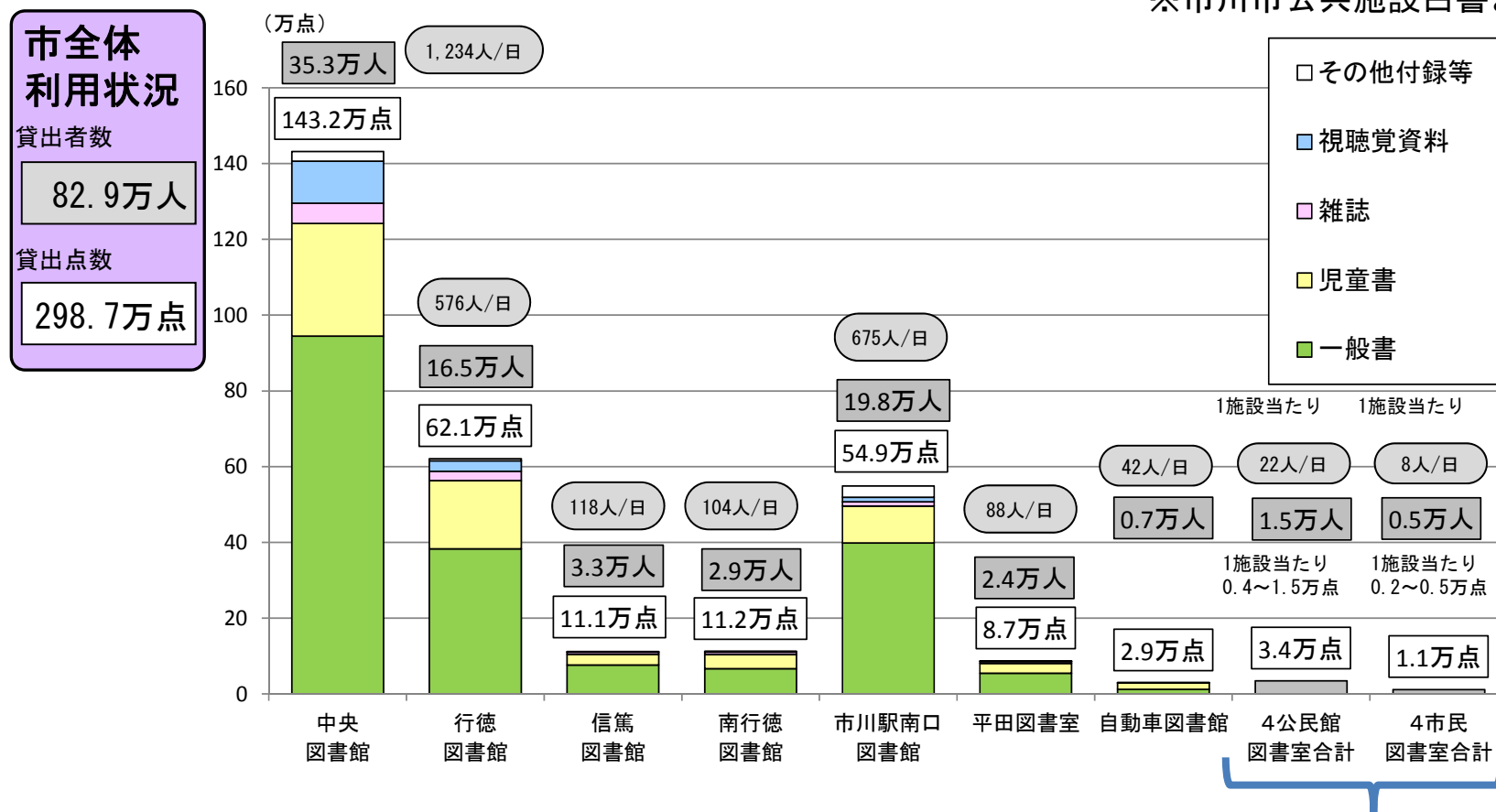
施 設 名	施設数
◆図書館	6
◆公民館図書室(公民館内)	7
◆市民図書室(小学校内)	4
◆情報資料室 (男女共同参画センター内)	1
合 計	18

※施設一覧は別添「公共施設シート」参照

③図書館（関連施設含む）

【施設別貸出点数・貸出者数（平成25年度）】

※市川市公共施設白書より



図書の取次ぎ

③図書館（複合施設整備）

◆中央図書館：生涯学習センター（メディアパーク市川）



インフォメーションカウンター



ライブラリー



ブラッキングコーナー



こどもとしょかん

- ・生涯学習の振興及び普及を図ることを目的として平成6年に建設
- ・**中央図書館（1階）**、**こども館（1階）**、**文学ミュージアム（2,3階）**、**教育センター（3階）**の主に4施設からなる複合施設

「よむ」「きく」「まなぶ」「あそぶ」をひとつの施設で可能とした施設

③図書館（利便性の向上）

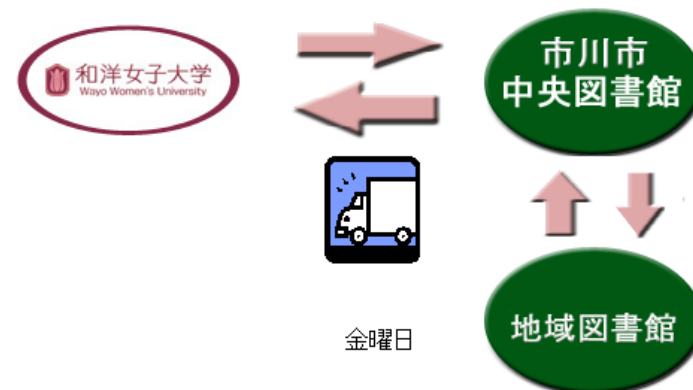
◆大学図書館との利用連携

千葉商科大学



- ・大学付属図書館で市立図書館所蔵の予約図書を受け取りが可能
- ・大学図書館の所蔵資料が利用可能

和洋女子大学



- ・大学メディアセンター(図書館)の所蔵図書が市立図書館内で利用可能

図書館（利便性の向上）

◆ICタグシステムの導入：市川駅南口図書館



- ・ JR市川駅南口再開発ビル内に開設（H21）
※民間による運営（指定管理者）
- ・ 自動貸出機により貸出資料のピックアップや貸出手続きが利用者自身でできる



貸出、返却時間短縮などのサービス向上

◆：TSUTAYA図書館：他市の事例



- ・ レンタル大手「TSUTAYA」が運営
- ・ 書籍の購入、CD・DVDレンタル可能
カフェ併設
- ・ 武雄市（佐賀県）、海老名市（神奈川県）
などが導入

4. アンケート調査結果

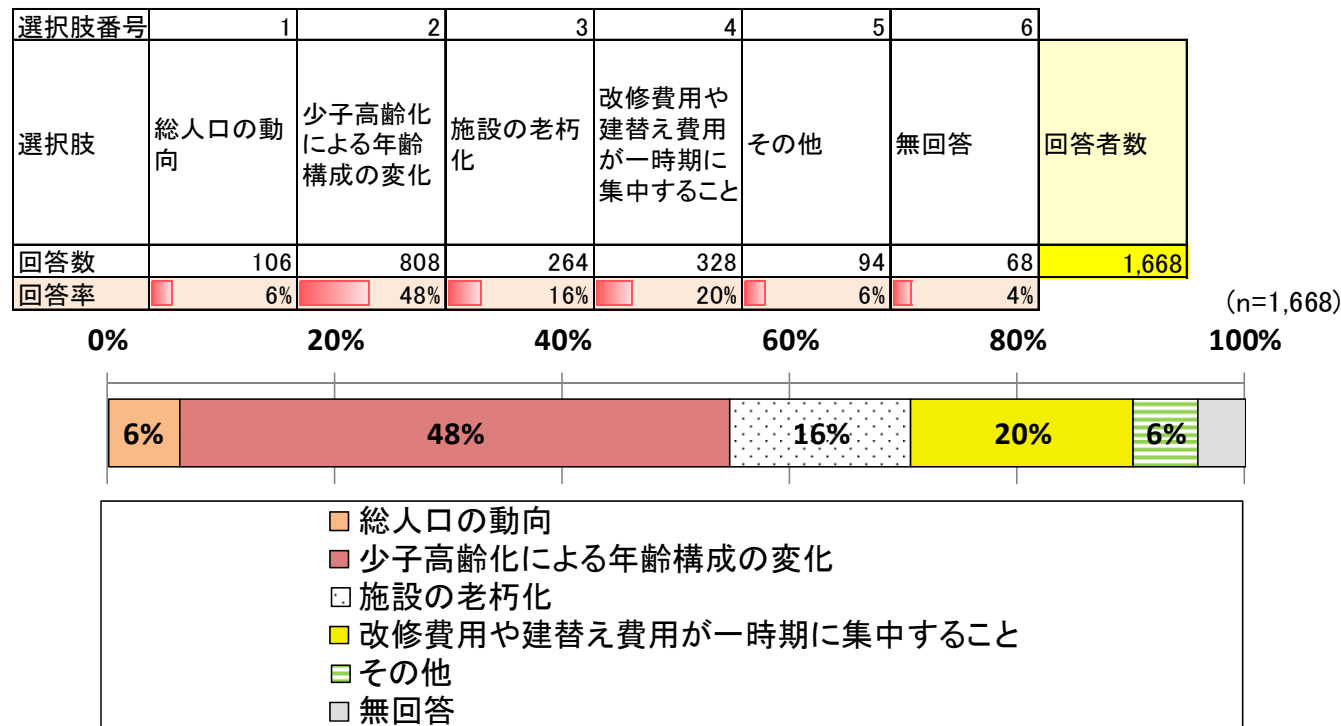
アンケート調査結果

■市川市公共施設に関するアンケート調査

調査対象	市川市内全域
調査対象	市内在住の満18歳以上の方 (平成27年8月1日現在)
調査方法	郵送による配布、回収
配布数	3,000人 (住民基本台帳からの無作為抽出)
有効回答数	1,668
有効回答率	<u>55.6%</u>
実施期間	平成27年8月29日(土)～9月18日(金)
調査項目	公共施設の利用状況について 今後の整備手法について 見直しにあたって重視する視点について

アンケート調査結果

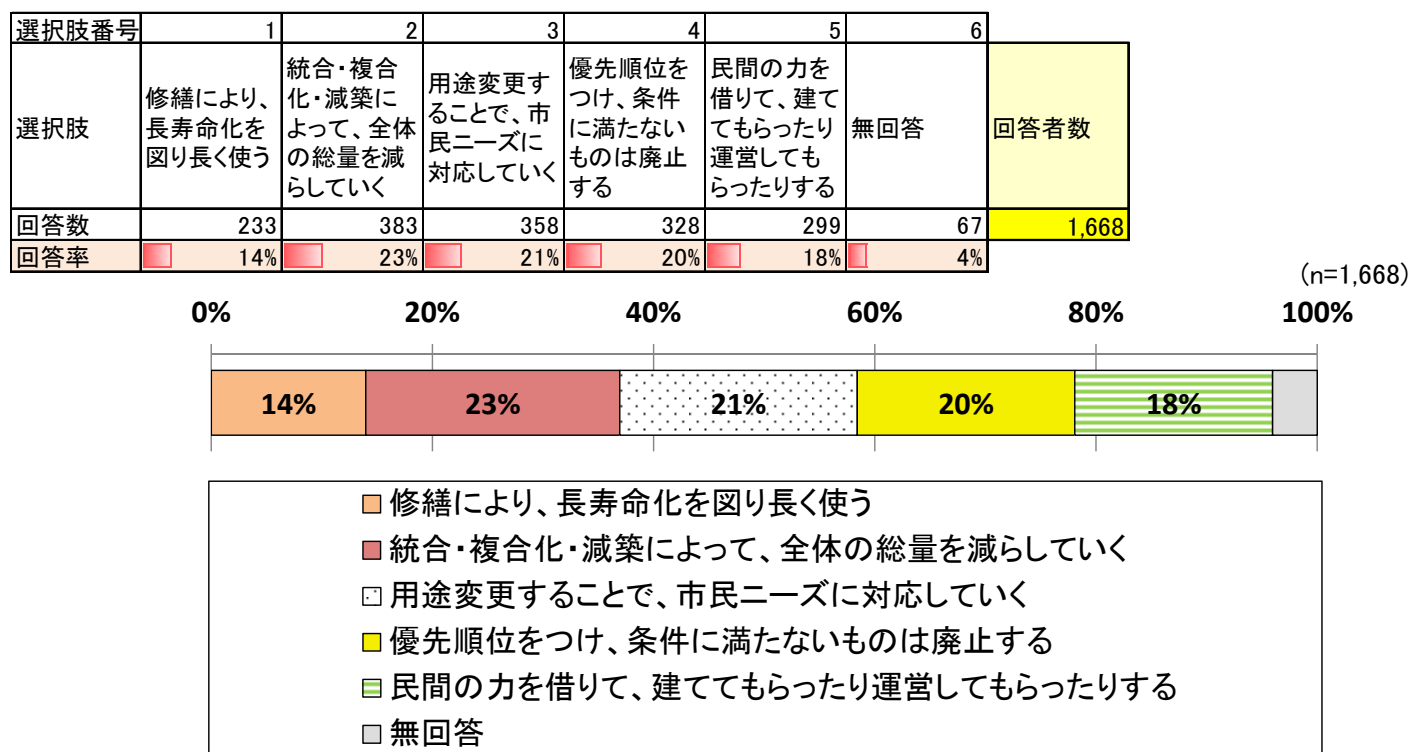
問6. 市川市の将来について、最も心配を感じた点は何ですか。



「少子高齢化による年齢構成の変化」が48%と高い割合を占めている

アンケート調査結果

問12. 限られた予算の中で、公共施設を維持・運営していくためには、どのような手法をとる方がよいと思いますか。



全ての手法の中から、施設ごとに適した手法を見極めて実施していく

アンケート調査結果

問11. 今ある施設を見直すにあたって、あなたが重視する視点は何ですか

	項目	結果
建物の性能	安全性	41%
	老朽度	7%
	快適性	24%
	環境性	6%
	防災性	20%
施設の機能 (サービス)	利便性	34%
	地域性	15%
	経費	16%
	利用実態	27%
	行政が行う 必要性	5%

行政(市)が考えた10の視点



- 学校と公民館、図書館、保育園など、施設ごとに重要度は違うかもしれない...
- 施設によっては当てはまらない視点もあるかもしれない...

次回のワークショップのテーマ

**「公共施設ごとに
どうあるべきかを考えよう！」**